



## ■最近の話題

### どえんぜき 『土淵堰』が「世界かんがい施設遺産」に登録されました

10月10日、メキシコ、メキシコシティで開催された国際かんがい排水委員会の第68回国際執行理事会において、西津軽土地改良区の『土淵堰』が「世界かんがい施設遺産」に登録されました。本県では、平成26年度に登録された『稻生川』に続く2施設目の登録となります。

世界かんがい施設遺産は、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、歴史的なかんがい施設を国際かんがい排水委員会が認定・登録する制度であり、平成26年度に創設されました。

国際かんがい排水委員会は、1950年に設立された自発的非営利・非政府国際機関であり、現在は76の国・地域が加盟しています（日本は1951年に加盟）。



岩木山と土淵堰

## 1 施設の概要

『土淵堰』は、大規模湿地帯であった津軽平野において、岩木川の西側の農地へ水を供給するため、江戸時代初期に築造され、その維持管理のために津軽藩が土淵堰奉行という地位の高い役職を設けるなど、地域発展の命運をかけて開削された延長16キロメートルに及ぶ開水路です。

現在では、8,300ヘクタールの農地に用水を供給し、地域農業を支える施設として受け継がれています。

## 2 土淵堰の取組

『土淵堰』では、農家組織を中心に適切な維持管理が行われているとともに、周辺環境の整備についても、地元住民や地元小学校と管理協定を結び、役割を分担して保管理をしており、地域が一体となった地域づくりを積極的に推進しています。

## 3 登録証伝達式

平成29年11月16日（木）、農林水産省で登録証の伝達式が行われ、『土淵堰』を含む4施設の施設管理者等が出席しました。本県からは、西津軽土地改良の増田理事長と福島理事（つがる市長）が出席し、農林水産省農村振興局の荒川局長から登録証が、国際かんがい排水委員会の佐藤委員長から盾が授与されました。



伝達式での記念写真

## ■「環境公共」事例紹介

### 福島地区（藤崎町） ～ミズオオバコの移植活動～

#### 1 地区の概要

福島地区では、平成28年度から農地の汎用化と農作業の効率化を図ることを目的に、用排水路や暗渠排水を整備する事業を実施しており、環境公共の取組を推進するため、福島地区環境公共推進協議会を設立しました。

協議会では、福島地区環境公共推進計画を策定し、排水路末端の環境保全エリアに群生する希少種である「ミズオオバコ」を保全種として位置付け、環境公共の取組としてミズオオバコを事業で整備しない排水路や農村公園の池に移植・保全する活動をしています。



H29. 8. 26 ミズオオバコ開花状況

#### 2 ミズオオバコの移植活動

昨年、ミズオオバコを移植した排水路と農村公園の池を観察したところ、排水路では繁茂・開花がみられましたが、農村公園の池については、残念ながら発芽した形跡がありませんでした。

今年度は、10月18日に環境公共コンシェルジュの奈良岡隆樹氏と協議会のメンバー9名が参加して、昨年度と同様にミズオオバコの果実（種）が流されないよう麻袋に入れて排水路に移植しました。

また、農村公園の池には奈良岡氏の指導により、果実（種）のみを蒔いたり、土壌に浅く埋めたりする手法も試みました。

ミズオオバコの果実。  
中に200～300個の種がある。



H29. 10. 18 ミズオオバコ果実（種）

#### 3 今後の取組

協議会では今後もミズオオバコの移植活動と移植先のモニタリングを継続していくこととしていますが、農村公園の池は水の流れが悪く水質が悪化しやすいため、水質改善に向けた取組も行う予定としています。



H29. 10. 18 ミズオオバコ移植風景

「環境公共」HP <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>

